

学校教育目標	夢と希望をもって、心豊かにたくましく生きる児童の育成
育成を目指す資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ○つなげる(系統性を考えスパイラルに)指導・支援を工夫 ○自分の思いや考え書く・説明する活動 ○お互いのよさを理解し、協力し、よりよいものを創るために努力する(多様性を認め合う)

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・文章や表、グラフ、資料を読み取る力や資料を比較して考える力が弱い。 ・視点や条件を与えた文章を書く力が弱い。 ・問題の内容等、聞き取る、理解する力が弱い。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・文章や資料を読み取らせる時間の保障 ・読み取り方の指導方法の工夫改善 ・記述の時間の保障と記述方法の指導の充実 ・子どもが「分かる・できる」と感じる授業実践の継続
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・伝えること(話す・書く)への意欲が低く、活動を困難に感じている児童が多い。 ・基礎・基本の力を付けるため、春日タイムで国語と算数に取り組んできたが、定着状況にまだまだ個人差がある。 ・「言葉の力」を付けるため、全校で言語のプリント(学年の系統性)に取り組んでいるが、まだ成果は出ていない。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・個に応じた指導法の工夫や教師の授業力向上に向け、校内研修の提案授業を基に、授業改善の方策を協議し、共通理解を図った。 ・算数科授業における振り返り場面での書く力を高めるために授業改善を行ったことで、書く習慣が定着してきた。 ・お互いに認め支え合う学校・学級集団づくりを目指して、「人間関係づくりプログラム」等、子ども一人一人の心の安定を図る取組を充実させたことで、学校が楽しいと感じる子どもが増えた。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・運動に親しみ、自ら運動できる子どもの育成を目指し、「運動・遊びを通じた走力の向上」に重点的に取り組んだ。取組状況に個人差はあるが、体を動かすことが好きな児童が増えてきているので、運動・遊びの精選を検討している。 ・春日タイムの基礎・基本の定着、休み時間等を活用した補充学習、家庭と連携した家庭学習指導等、個に応じた指導の充実に向けた取組を継続している。	

学力に関する達成指標

- 「単元末テストで80点以上の児童の割合を75%以上、50点未満の児童の割合を10%以下にする。」
- 「児童アンケートで『学校が楽しい』と答える児童の割合を90%以上、新たな不登校ゼロ」

